



南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500
<https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/>

南葵音楽文庫の「モノディ」に関連する楽譜資料と参考文献

Music 29 (Monuments of music and music literature in facsimile 1st ser.) Le nuove musiche, Broude Bros. 1973 ナ/767.3/CA
Recent researches in the music of the baroque era v. 9 Le nuove musiche , A-R Editions , c1970 ナ楽譜/762.05/RE/9 「762 NE4
The New Oxford History of Music, vol.IV "Humanism 1540-1630", 1968
Source Readings in Music History, O. Strunk, ed. 1950 ナ/762/ST/
フリードリヒ・ブルーメ『ルネサンスとバロックの音楽』 ナ/762.0/ブコ
クロード・パリスカ『バロックの音楽』1975 ナ/762.05/パリ
皆川達夫『バロック音楽』講談社現代新書 291, 1972 ナ/762.05/ミナ

モノディ monodi

16世紀終わり頃に、古代ギリシアの朗唱法を復活させようとした、フィレンツェのカメラータの人々によって提唱された、歌詞の内容表出を重視した通奏低音の伴奏による独唱歌曲形式とその様式。

カメラータ：16世紀後半にフィレンツェのジョヴァンニ・デ・バルディ伯爵家のサロンに集まり、古代ギリシアの演劇を復興しようとする研究活動を行った人々。代表的な参加者は、詩人のオッタヴィオ・リヌッチーニ、音楽家のジュリオ・カッチーニ、ヤコポ・ペーリ、音楽理論家のヴィンチェンツォ・ガリレイなど。

ヤコポ・ペーリ (1561~1633年) オペラ《エウリディーチェEuridice》1600年 序文から

……私は、他の形ではありましたが、オッタヴィオ・リヌッチーニ氏によって書かれたダフネの物語に、私たちの時代の音楽ができる簡単な試みを行うために作曲し、ヤコポ・コルシ氏とオッタヴィオ氏を(早くも1564年に)喜ばせました。それが劇的な詩の問題であり、歌において人のしゃべりを模倣すべきであるということ(そして疑いなく誰も歌唱について話していないこと)を考え、私は、古代ギリシアや古代ローマの人々(多くの方々の意見に従えば、彼らは、舞台上で悲劇全体を歌っていました)がアルモニアを用いたと判断しました。アルモニアとは、通常の会話をはるかに越えていながら、歌の旋律というには足りない、中間的な形式です。……

私は、これまで聴いてきたすべての他の歌唱方法を捨て、これらの詩のために必要な種類の模倣をひたすら探求しました。そして私は、古代の人々が歌唱に採用し、「ディアステマティカ diastematica [音程]」と呼んだ種類の声[歌い方]であれば、時によっては速めたり、歌が延ばされたゆっくりとした動きと、語りの流れるようなすばやい動きとの中間的な方法をとることもできると考え、また、それが(古代の人々が詩歌や英雄詩を読む際にそれを採用したように)私の意図に合うかもしれないと考えました。そしてさらに、それは、古代の人々が、その種の声[歌い方]を「コンティヌアータ continuata」と呼び、私たち現代の人々が、おそらく他の目的のためでしょうが、音楽作品の中ですでに用いている、もう一種のやり方、すなわち会話の声に近い、と考えました。……

